

第1コース 【化石燃料活用事例視察コース】

【訪問先】

- ①武豊火力発電所
- ②東部知多クリーンセンター

【コース概要】

ゼロエミッションの流れに対応すべき都市機能を維持するための施設では、様々な工夫がされているが、限りなく外部への負荷を軽減するための努力が地道に進められている。今回視察の対象として選定した施設は、旧来施設の構成から大幅な改善を試み、限りなく排出物ゼロを実現した施設を選定している。

その一つは都市の機能を維持するための電力供給施設－武豊火力発電所－であり、もう一つは、都市の環境を維持するための廃棄物処理施設－東部知多クリーンセンター(エコリ)－である。

武豊火力発電所は現在では石炭を主とする発電所であるが、超々臨界圧の(USC)の技術を採用しており、さらには木質バイオマスを加えることで環境負荷軽減を目途とした施設である。また、燃え殻の全てはセメント原料等として利用されている。

東部知多クリーンセンターは、管理型最終処分施設を必要としない処理施設で、これを実現するためのコークスを投入しているが、当初(1979年)の投入量を徐々に軽減させることで環境負荷の軽減に努めて来ているが、今回視察する施設では低炭素型を採用しており、コークス投入量は当初から比較すると 1/6 まで軽減されている。また、当施設で生成されるスラグは JIS 規格に承認されているが、さらに、有効利用の道を模索して来ている。



武豊火力発電所



東部知多クリーンセンター